（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	はるにれ（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日	～	令和7年12月20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	33人	（回答者数）	30人
○従業者評価実施期間	令和8年1月14日	～	令和8年1月21日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6人	（回答者数）	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	＜発達支援＞こどもや保護者のニーズに合わせ、個別プログラムと、集団プログラムを組み合わせて支援をしている。	こどもの発達特性や強みをみながら、個別プログラムを作成し、できることや分かることが増え、自尊感情が高まるよう関わっている。集団プログラムでは、こどものやりたいことを取り入れ、自己選択できるよう配慮している。	専門性をさらに高めるためのスキルアップに努めることや、並行利用の学校との情報連携にさらに取り組む。
2	＜家族支援＞定期的に保護者と面談し、こどもの状況を確認しながら、こどもの発達特性の理解や、家庭での対応方法についての助言、さらに、きょうだい児へのカウンセリングなど、家族支援に取り組んでいる。	まずは、こどもが家庭で安定して過ごせるように、保護者のメンタルケアも含めて、ご家族への寄り添い支援を心掛けている。	ニーズに応じて、家族療法カウンセリングや、ペアレントプログラムに取り組んでいきたい。
3	＜本人支援・保護者支援＞安心基地機能としての役割や愛着面へのアプローチ	児童にあっては、家庭や学校等が安心できる場所になっていない場合の仮の安心基地の提供（不登校支援含む）や、保護者にあっては、保護者自身が不安定な愛着を抱えている場合の、仮の安心基地となることなど。	愛着アプローチの機能（専門性や体制）を高めるとともに、関係機関との連携をさらに強めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が少ない。	事業所に通うことへの抵抗のある方もおられたり、個別支援の方は、来所出来る日が限られているため、交流を設定することは難しいと考えていたため。	交流のニーズを把握し、希望があれば、気軽に集まって、お喋りができる場を設定していく。
2	地域との交流が少ない。	地域の行事や活動などの情報収集をあまりしていなかった。	地域の資源を活用するため、三保まちづくりセンターや、リハビリテーションカレッジの活動情報の収集、三保保育園や放課後児童クラブ、湊浦自治会等との交流を企画する。
3	感染症の対応や非常災害対策のマニュアル、防犯対策といった研修や訓練の実施状況等の、保護者への周知不足がある。	事業所玄関に備え付けのファイルに綴じて、いつでも閲覧できるようにしているが、いつ、どのような研修や訓練を実施しているのかといった情報を発信していなかった。	定期的に発信している「はるにれ便り」（LINEで一斉送信）やHP、事業所内掲示等で研修や訓練の実施状況を掲載し、周知を図る。